

世界に貢献する日本

日本は1990年代に深刻な廃棄物問題に直面しつつも
抜本的な政策改革を行い
これを切り抜けた



そして21世紀初頭には
循環型社会の構築において
世界をリードする立場になったのだ

そして日本は2004年の
G8シーアイランドサミットで
資源の有効利用を通じて



環境と経済の両立を図る
3Rを推進し、循環型社会の
構築を国際的に進める
「3Rイニシアティブ」を
提唱したんじや

これはG8首脳の賛同を得て
『持続可能な開発のための科学技術：
「3R」行動計画及び実施の進歩』を
発表したんじやな



3Rを通じた「循環型社会」の構築を
「低炭素社会」、「自然共生社会」に向けた取組と
統合的に展開することで、日本は
「持続可能な社会」の実現に向けて
主導的な役割を果たしていくことが
求められているんじやな！

◆国際社会と日本の取組

『持続可能な開発のための科学技術：「3R」行動計画及び実施の進歩』を受けて、日本では「3Rを通じた循環型社会の構築を国際的に推進するための日本の行動計画」（ゴミゼロ国際化行動計画）を発表しました。2006年のロシア・サンクトペテルブルクサミットにおいては、日本の提案により「資源循環の最適化のための努力をさらに進めるために、G8各国が資源生産性を考慮して目標を適宜設定する」ことが合意されました。

2008年5月に神戸で開催されたG8環境大臣会合では、「神戸3R行動計画」が合意され、具体的な取組が示されました。また、我が国は、「新・ゴミゼロ国際化行動計画」を発表し、国際的な循環型社会の構築に向けた決意を示しました。

3Rイニシアティブの国際的推進

- 2004年 6月 G8シーアイランドサミット(米国)
小泉首相(当時)が3Rイニシアティブを提案し、各国首脳が合意
- 2005年 4月 3Rイニシアティブ閣僚会合(東京)
20ヶ国の閣僚・国際機関代表が参加し、3Rの国際的な推進について合意
- 2006年 7月 G8サンクトペテルブルクサミット(ロシア)
3R推進のために、G8各国は資源生産性を考慮した目標設定に合意
- 2007年 6月 G8ハイリゲンダムサミット(ドイツ)
- 2008年 G8環境大臣会合(神戸) 神戸3R行動計画に合意

G8北海道洞爺湖サミット(日本)

◆持続可能な社会の実現

世界が継続的に発展していくためには、持続可能な社会を実現しなければなりません。持続可能な社会の実現は、「低炭素社会」と「自然共生社会」、そして「循環型社会」に向けた取組の統合的な展開が必要です。自然の循環を尊重し、人間社会における炭素も含めた物質循環を自然、そして地球の大きな循環に沿う形で健全なものとする事で、持続可能な社会が築かれていきます。今、世界はこの持続可能な社会の実現にあたっての、ひとつの転換期を迎えています。日本はその歴史・経験を活かし、責任ある舵取り役として、この世界の発展と繁栄に一層貢献していきます。

